

今日の説教のポイント<ヨハネによる福音書8章1~11節>

①今年よく見た情景、激しい批難（バッシング）。

人々が姦淫の現場を押さえられた女を囲んで興奮しています。この時代、姦淫は誰もが「けしからん」と怒って当然の罪でしたから仕方ないのでしょうか。しかし、この情景は最近どこかで見たような。そうです、今年の前半大騒ぎになり、自殺者まで出した stap 細胞騒動。自殺した上司は若い人を登用することで知られ、慕われていたそうです。人をそこまで追い込んでいいバッシングはあるのでしょうか？

②「罪なき者、まず石持て擲て」、によって気づかされること。

姦淫の罪を犯した女にイエス様はどうせよと言われたでしょう。「あなたたちの中で罪を犯したことの無い者が、まず、この女に石を投げつけなさい」(7)と言われたのです。これを聞いて人々の興奮は静まり、結局、皆その場を去ったのです。年長者から去り始めたとあります。生きた年数の長い者ほど、己自身の罪を思い返すに早く、「自分に石を投げる資格はない」と気づくのも早かったのでしょう。

③罪に定める資格は誰にあるのか？ 赦す資格のある方はどなた？

イエス様は、「誰もあなたを罪に定めなかったのか」(10)と問われました。誰かを罪に定める資格がある人はいるのでしょうか？ 皆が去ってしまったことは、「自分は罪を犯したことはない」と言える人間は一人もいないことを示しています。イエス様も、「私もあなたを罪に定めない」(11)と言われました。しかし、これは、「自分も罪人だから、あなたを罪に定め“られない”」ということではありません。もっと大事なことを意味しています。その大事な意味とは？

④私の罪を赦して下さる神様！ ここに生きる理由がある！

イエス様は罪を犯さずには生きられない私たちのために神様が送って下さったお方なのです。イエス様の十字架と復活の意味と言われても難しいですね。しかし、この女性に対するイエス様の優しさは分かるのではないのでしょうか。この姿こそ、聖書から知らされる神様の姿なのです！ 私たちが生きる（生きられる）理由は、この神様を知り、この神様と共に生き出すことの中で見出せていくのです！